令和５年度第２回　伊勢市地域福祉計画推進委員会 結果概要

開催日時　令和５年９月29日（金）13時30分～15時48分
開催場所　伊勢市健康福祉ステーション７階　福祉総合支援センターよりそい会議室１
出席委員　鵜沼 憲晴委員、小林 初美委員、清原 もゝ代委員、小野田 弥生委員、
松村 まち子委員、加藤 志保委員、三川 隆委員、中居 美幸委員、立松 浩明委員、
秋山 則子委員、前島 賢委員、西岡 幸一委員
欠席委員　泰道 詞子委員、大東 弘幸委員
事務局　伊勢市：健康福祉部長、健康福祉部理事、健康福祉部次長
参事兼福祉総合支援センター長、
健康課長、介護保険課長、高齢・障がい福祉課長、福祉総務課長、
子育て応援課長、保育課長、市民交流課長、生活支援課長
福祉総合支援センター副参事、センター長補佐、主幹、係長、主査、職員
伊勢市社会福祉協議会：局長、地域福祉課長、副参事、係長、主査、センター長
傍聴者　なし

１．第４期　伊勢市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定（素案）について
資料に沿って事務局より説明。

【委員からの主な意見等】
<u>第１章について</u>
〇SDGｓとの関係で示した４つのゴールを選んだ根拠は？
（事務局回答）地域福祉に特に関連の強いゴールを選んだ。

〇計画の期間の図について、各計画の期間がバラバラで分かりにくい。6年度以降が切れているように見える。
（事務局回答）分かりやすい表現に修正する。

<u>第２章について</u>
〇福祉体験等を小学生から実施しているが、もっと小さいうちから実施してはどうか。
（事務局回答）参考とさせていただく。また、子ども・子育て支援事業計画においても意識していきたい。

〇孤独・孤立の表現が、子どもが対象に含まれないようなイメージがある
〇孤独・孤立対策が条文どおりの表現では抽象的で分かりにくい。
（事務局回答）法律については条文どおりとし、施策の部分で分かりやすい表現に努めたい。

〇就学援助の件数がR3、R4で増えているのはコロナによるものと思われるが、それ以前から児童数の減少にもかかわらず件数が変わっていないので、割合が増えていると認識している。また

市独自の奨学金制度があるが、その割合も増えている。
（事務局回答）表現を見直したい。

第３章について

〇福祉教育は具体的にどのようなことを取り組むのか。座学ではなく体験を重視してほしい。
（事務局回答）地域の事業所やボランティアと協働し福祉体験講座を実施している。計画に反映していきたい。

〇次世代を担う子どもへの福祉教育の実施にあたっては関心を持ってもらえるような工夫を。
（事務局回答）若い世代に福祉に関心を持ってもらうきっかけづくりとしての福祉教育のあり方を検討していく。

〇場づくりの◎が１件では少ない。
（事務局回答）関連するものがないか検討する。

〇「困っている人のＳＯＳをキャッチする」との表現が分かりにくい
（事務局回答）SOS を発信できない人、どこに相談したらいいのか分からない人への対応を推進したいと考えている。表現を修正し分かりやすくする。

〇災害ボランティア養成講座を受講した 325 名には地域に偏りないのか。
（事務局回答）地域の偏りはあるが、市全体で支えていく体制を推進していきたい。

〇自分の家から近い避難所を知らない高齢者に、周知が行き届くような取り組みを進めてほしい。
（事務局回答）避難所の周知については担当部署と協議したい。

〇災害時の地域の支え合いの体制づくりについては、簡単に結論がでるものではないが、一人一人みんなで考える課題と思う。
（事務局回答）個別避難計画の作成を通じ、避難にあたって必要となる支援などの課題が見えてくることもある、取り組みを進めたい。

〇分野を超えて利用できるようにするのはサービス事業所だけか？
（事務局回答）「様々な分野、世代が交流できる共生の場づくり」としており、サービス事業所に限らず、住民主体の場づくりも進める。表現を検討する。

〇こども食堂等の立ち上げ・運営を支援 とあるが、どのような支援か分からない。
（事務局回答）具体的な取り組みが分かるよう表現を検討する。

２．その他

次回会議は、令和５年 10 月 27 日。別途ご連絡申し上げる。